資料3

2020年9月8日（第108回女性に対する暴力専門調査会）@オンライン参加

加害者対策について–加害者の脱暴力プログラムの開発と制度化について

中村正（立命館大学）

1　暴力の定義（表現とその変化）

○Family Violence/Intimate Partner Violence（IPV）/Domestic Violence
Gender Violence（イスタンブール条約）/Violence against Women
*変化の動向
英国等での追加＝心理的暴力の位置づけ
重大犯罪法（serious crime act 2015年改正「家庭内虐待（Domestic Abuse」/「親密な、あるいは家族関係においてコントロールするあるいは強いる行動（controlling or coercive behaviour in an intimate or family relationship」追記。「友人や家族から孤立させる」、「デジタルツールを用いて監視する」、「（どこにいくか、誰と会うか、着るもの、寝る時間など）日常生活を統制する」、「お前は価値のないやつだと繰り返して言う」、「辱める行為・相手に自己非難を強いる」、「プライバシーを明かすと脅す」等を例示
○Coercive Controlとして位置づける研究の影響
脅迫、監視、貶め、コントロール、孤立
（Intimidation/Surveillance/Degradation/Control/Isolation）
Stark, Evan.(2007) Coercive Control: How Men Entrap Women in Personal Life, Oxford University Press

2　加害者の類型論研究（One Size fits All.批判を受けて）

○Batterer Typology 加害者の類型（バタラーの種類）
①　家族のみ50%(全体の50%)
社会的合図の誤解による暴力/極度の欲求不満に限定された暴力 サイコパシー、犯罪歴/重度の精神障害、薬物・アルコール乱用の既往歴なし
②　感情障害25%(全体の25%)
感情的に爆発的である/薬物やアルコールの乱用
③　暴力性25%(全体の25%)
反社会性パーソナリティ障害、サイコパシー/犯罪歴あり/重度の精神障害がある/薬物やアルコールの乱用
Holtzworth-Munroe A, Stuart GL: Typologies of male batterers: three subtypes and the differences among them. Psychol Bull 116: 476 –97, 1994

3　リスクアセスメント

○SARA(Spousal Assault Risk Assessment)

① 過去の家族への暴力事件
② 過去に見知らぬ人や知人に暴行を加えたことがあるか
③ 過去に条件付き釈放またはコミュニティ・スーパービジョンに違反したことがある
④ 最近の夫婦関係問題
⑤ 最近の雇用問題
⑥ 児童虐待の被害者または目撃した経験
⑦ 最近の薬物乱用または依存
⑧ 最近の自殺または殺人的な想念
⑨ 最近の精神病や躁病の症状
⑩ パーソナリティ障害
⑪ 過去の身体的暴行
⑫ 過去の性的暴行や性的嫉妬
⑬ 過去に武器を使用したことがある、明確に殺すと脅したこと
⑭ 最近の暴行の頻度またはエスカレートの程度
⑮ 過去の接近禁止命令違反
⑯ これまでの DV を極端に最小化したり否定したりする
⑰ 配偶者への暴力を支持または容認する態度
⑱ 深刻な性的暴行
⑲ 武器の使用または確実に証拠のある脅迫
⑳ 最近の接近禁止命令違反

Kropp P, Hart S, Webster C: Spousal Assault Risk Assessment (SARA). User's Manual. Toronto, ON: Multi-Health Systems Inc., 1999

○ODARA（The Ontario Domestic Assault Risk Assessment）

① 妻や子供に対する過去の暴力
② 先行する DV 以外の事件
③ 事前の親権者判決
④ 事前の条件付き釈放での失敗
⑤ 暴行となる危害を加えるか、または殺害への脅威
⑥ 罪となるような配偶者の監禁
⑦ 被害者の不安
⑧ 一人以上の子供（加害者・被害者）
⑨ 被害者には前のパートナーからの実子がいる
⑩ 他者への暴力

⑪ 薬物乱用歴
⑫ 妊娠中の被害者への暴行
⑬ 被害者支援への妨害
Hilton NZ, Harris G, Rice M, et al: A brief actuarial assessment for the prediction of wife assault recidivism: The Ontario Domestic Assault Risk Assessment. Psychol Assess 16:267–75, 2004

○Neuropsychological Characteristics of Abusers
① 幼少期の家庭での暴力の目撃
② 性格タイプ：愛情渇望、依存性が高い、アサーション的でない、自尊心が低い、不適切な感情
③ 病的な嫉妬
④ アルコールや薬物の乱用
⑤ 外見（他者からの評価）を気にしすぎる
⑥ 女性を見下す態度
⑦ 的確に葛藤を解決できない
Walker L: Psychology and domestic violence around the world. Am Psychol 54:21–9, 1999

○DANGER ASSESSMENT
① 叩く、押す（怪我はないが痛みが続く）
② 殴る、蹴る、あざ、切り傷がある/および・または継続的な痛み
③ 重度の打撲傷、火傷、骨折
④ 凶器使用の脅迫；頭部損傷、内部損傷、後遺症、流産、窒息
⑤ 武器の使用、武器による傷
Jacquelyn C. Campbell, PhD, Johns Hopkins School of Nursing

4 他の暴力リスクアセスメント（比較のために）

○性犯罪–法務省性犯罪再犯防止教育（改善指導対象者リスクアセスメント）の考え方
① 重要な他者の存在
② 親密さの欠如（下位 5 項目）
③ 性的自己統制（下位 3 項目）
④ 性暴力支持的な態度（下位 3 項目）
⑤ 指導・監督への協力（下位 3 項目）
⑥ 一般的な自己統制（下位 3 項目）
＊3 件法で評価してプログラム密度に振り分けていく（低密度・中密度・高密度）。

〇子ども虐待–児童相談所（虐待の被害と加害の評価に活用）CBCL (Child Behavior Checklist)のケースワークとリスクアセスメント

総数 113 項目について 3 件法。自由記述も含む。８つの下位尺度（ひきこもり、身体的訴え、不安抑うつ、社会性の問題、思考の問題、注意の問題、攻撃的行動と非行的行動）と２つの上位尺度（内向尺度、外向尺度）。年齢群別（4-10 歳、11-18 歳）、性別にプロフィール化。児童思春期精神保健研究会が翻訳して全国の児童福祉系で活用。この尺度を含んだデータを紹介しており入手しやすい文献：全国里親委託等推進委員会『平成 27 年度調査報告書』（下図紹介）。制度的には、厚生労働省「児童虐待に係る児童相談所と市町村の共通リスクアセスメントツールについて」（平成 29 年 3 月 31 日）で体系的統一。

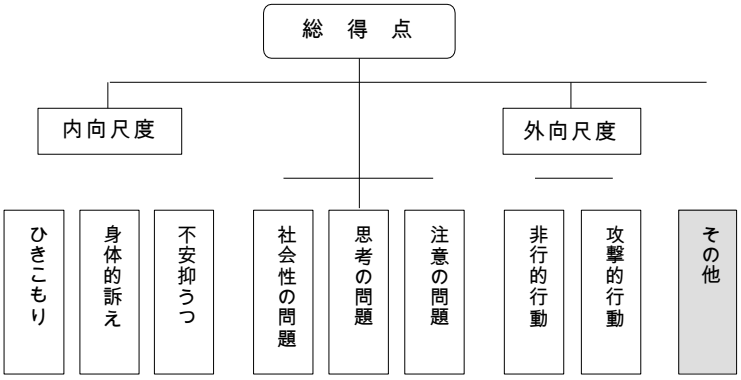

図 2 CBCL/4-18 TRF YSR の尺度構成

５　男性と男性性の研究（study on men and masculinities）

〇「男親塾」の事例-発言の頻度をもとに

子どもの虐待とネグレクト 第 22 巻第 1 号 2020 年 4 月

表 1 暴力神話––グループワークで語られた男性たちの暴力を肯定する意識の整理

暴力は愛のむちである。	暴力は相手が引きおこさせる。
暴力は問題解決になる。	暴力に耐えてこそ人は強くなる。
暴力は正しい。	暴力を振るわれるには理由がある。
暴力をとおして痛みがわかる。	暴力は人を鍛える。
暴力を振るうほどに関係が密である。	暴力は絆を強くする。

中村正「男たちの『暴力神話』と脱暴力臨床論-家庭内暴力の加害者心理の理解をもとにして一」（日本子ども虐待防止学会）

〇男性相談の記録ノート（被害者聞き取り）から

「自分のものを買うときにいつも一緒に付いてくる。『僕の好みの女性になってほしい』と言う。自分が自分でなくなっていく感じがする」,「交通の便の良くないところに住んでいるので本当は免許が欲しい。必要なのに，免許を取らせてくれない。『運転が下手だから』って言う。だからいつも彼の車で行動することになる」,「『習い事をしている』と言うと，『それは男性から教わるのか』って聞いてくる」,「『同窓会に行く』と言うと嫌な顔をする」,「DV

を受けているのに彼といる方が安全だと思うような意識になったことがある。実家に逃げていると追いかけてきたり，メールが頻繁に入ったりするので結局一緒にいることで落ち着くから」，「『今日は何をしていたのか』といつも聞いてくる」，「『死んでやる』と言われると別れられない。元の関係に戻ることが多い」，「授業の前に携帯メールがあった。『俺のとっている講義が休講になったのでこれから会いたい』と。彼女はこれから講義がある。そうしないと愛情が薄いと非難されると思うと怖い」。

○不安定な男性性の研究

「人々が素朴にそう考える内容を確定して 11 個の男らしさの規範を取り出した心理学的な尺度がある。素朴理論・素人理論という。それは，1. 勝つことへの欲望，2. 感情的なコントロールの必要，3 リスク・テイキング、4. 暴力、5. 支配、6 プレイボーイ（性的に奔放）、7. 自立的である（援助を求めない）、8. 仕事優先、9. 女性への権力的な態、10. 同性愛の嫌悪，11. 地位の追求である。男らしさ規範への個人の適合度と男性の心理的健康をクロスさせている。相関させた指標は，1. 否定的なメンタルヘルス（うつ傾向にあるかどうか），2. 肯定的なメンタルヘルス（満足している生活かどうか），3. 対人関係上のメンタルヘルス（他者に助けを求めることができるかどうか）である。男らしさ規範とメンタルヘルスの関連を考察したのである。そうすると，上記の男らしさ規範のなかでは，6. プレイボーイ，7. 自立傾向にある（援助を求めない），9. 女性への権力的な態度の三つが男性の心理的な不健康に相関していた。一般化すると，性的奔放さ，女性支配の傾向，自信過剰さ（援助を求めない）の三項目となる（この研究は，78 の調査研究のメタ分析をしたもので，19, 453 人分のデータを扱っていることになる）」。Wong,Y.Joel., Ringo,Moon-Ho., Wong,Shu-Yi., Miler,I.S.Keino.,2016, Meta-Analyses of the Relationship between conformity to masculine norms and mental health related Outcomes, in Journal of Counseling Psychology, Nov.21,pp.1-14.

中村正「不安定な男性性と暴力」『立命館産業社会論集』（第 52 巻第 4 号、2017 年 3 月）より

（http://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=333186）

6　加害者プログラムに必要な視点（ハイブリッド型で日本版を作成）

① 静的リスク（固定的）と動的リスク（可変的）のコントロール（矯正・犯罪心理学）
② RNR モデル　Risk-Needs-Responsivity（カナダ司法省/保護と矯正・犯罪心理学）
③ GLM モデル　Good Lives Model（Ward,T/NZ オークランド大学/臨床心理学）
④ Duluth Model（米国/シェルター、被害者アドボケイト、ジェンダー教育、心理化批判）
⑤ 心理臨床的アプローチ（Dutton,D/カナダ・専門家治療的＝非教育的/臨床心理学）
⑥ ナラティブセラピー（Jenkins,A/豪州/責任の召喚モデル/コミュニティ＆ソーシャルワーク的な臨床心理学）

＊なお、ローカライズする際の視点としては家族の位置づけ問題がある（韓国、台湾のプログラムの場合、さらに多文化と暴力の関係でも考慮が必要）

7　加害者対策の制度化にむけて

① 暴力と加害の溝（暴力は認める加害への責任をとらない）
② 男親塾での経験–暴力神話への対応

③ DV と虐待の関係づけの必要性（DV 防止の側からも）
④ 男性と男性性の研究の知見の活用（加害者の脱暴力プログラムの内容）
⑤ 加害者対策・暴力臨床の制度デザイン-男性相談、保護命令制度＋、総合化（虐待、DV, その他も）

参考

① NHK 解説アーカイブス「視点・論点」
中村正「DV・虐待-加害者更生のために」2019 年 09 月 25 日（水）
https://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/412981.html

② 男親塾の記事